

9月議会9億4千万円余を補正 セシウム検出稲わら引き取り完了

3・11大震災から早くも半年が経過しました。福島原発も未だ収束の目途が立たない状況です。被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。

また今年の台風は各地に甚大な被害を残しました。局地的豪雨はどこを襲うか他所事ではありません。日ごろの備えの重要性を強く感じます。

セシウム検出稲わらについて残量は全て返却。散布堆肥は撤収、残留分は国の指示待ち。早期解決を願います。

9月議会では今年の豪雨災害の復旧予算、道路、河川などの公共施設災害、農業施設災害、小規模も合わせて多数で2億円超の補正予算。その他加茂岩倉遺跡の近くに有った火薬庫の移転補償費43百万円など総額九億円余の補正予算が可決されました。

また9月議会では22年度決算を審議。今回から議会改革

の一環で決算委員会に付託。各委員会で所管事業について分割審査。結果全て原案通り可決、提言書を提出しました。

新市役所建設計画、意見続出 大丈夫か!?

新市役所建設について総務委員会では協議を進めています。合併協議会で「建設すべし、場所は新議会で3候補地から決定する」との申し送りを受けて

議会で特別委員会を設け、慎重審議の末「木次町合庁周辺とする。但し財政状況を見極めつつ検討すること」と報告されています。その後

3月11日の大震災を受けて安全に対する考え方が激変。特に合庁周辺は斐伊川や請川などが流れていること。基礎地盤が軟弱なことなど心配する意見が続出。安全性をどこまで考慮するか。費用対効果等引き続き慎重審議が続きます

もう一人の賢人 勝部眞楯 (またて)

雲南市の三賢人、永井隆博士、加藤一朗先生、上代タノ先生。明治生まれ昭和、大正、昭和にかけて医学、教育、平和運動に大きく貢献された先生方です。少し時代は古くなりますが...

勝部眞楯。文政5年飯石郡上山村生まれ。大正七年発刊の飯石郡誌に記載された偉人。幼名を富得。数号を持つも裡窓(ていそう)が尤も有名。生家は元・代々神職天保6年、楯縫郡(たてぬいぐん・出雲市多久町辺)の金築晴久に国学を学ぶ。後 大阪で篆刻(てんこく)の大家阿部絹洲について研鑽を尽くした。

明治3年松江藩学館に仕出し松江修道館大助教となる。明治六年、郷土の田部長右衛門氏に聘せられ家庭教師となる。また掛合小学校初代校長として近郷の子弟を教養した。しかし風土身体に適さず三刀屋・今市に転居、後大阪に移居 田結莊千里(陽明学者)等と知己を得る。明治二六年には東京に移る。翰墨(かんぼく)の土に眞楯翁の篆刻を愛賞する者多し。明治の三筆と称せられた大宰府の宮小路康文が帝國議事堂の額字を揮毫した折、天覧に供すため宮内庁より「寿山石の大印材三顆」の恩賜を蒙り、この貴重な印材の篆刻を嘱す大家を慎重に物色し終に眞楯翁に嘱される。翁の刻を以って当代他に比類

なき名手と推奨した。眞楯翁若かりしからよく窮乏に耐え勉学、貧しくも在阪の折には雲国の学生の面倒を親身になつてみたと言ふ。明治三〇年東京で没。尚、帝國議事堂は大正一四年焼失。眞楯翁の篆刻を見ることは不可。残念です。



篆刻と書と眞楯翁の書(飯石郡誌より)

総合センター見直し計画 木次センターも存続

今年の市政報告会の3大テーマの一つ、総合センターの廃止・縮小計画で地元から激しい反対意見が相次いだ木次総合センターの廃止が撤回されました。同じく廃止計画が示された田井出張所も今後再検討されることになっています。

編集後記 失礼ばかりで済みません。早いもので任期も残り一年中。12月議会には報告予定...